

◆最優秀賞◆

私の大切な祖母のために

江陽中学校 一年

山倉 芽

私には、今年の七月に、八十歳になった祖母がいます。祖母の家は、私の自宅から歩いていける距離なので、幼い頃から、母が仕事の時に行ったり、学校の帰りに寄ったりしています。住んでいる家は違っても、私にとって祖母は、家族で、とても身近な存在です。

今年も夏休みには、祖母の家に何度も行きました。学校がある日とは違い、のんびりとできる祖母との時間。のびるが、なんだか変だなと思うことがたくさんありました。

話したことを忘れてしまったり、前の日のご飯が思い出せなかったりすることは、これまでもありました。こんなときは、物忘れを放っておくと進行してしまうと思って、一緒に話して、思い出すようにしてもらっていました。こうすると、祖母も思い出していたのです。

ところが、この夏の祖母は、がんばって思い出そうとすることが面倒になつてしまったようで、会話は続きませんでした。私は、祖母の物忘れがだんだんとひどくなつてきているように思い、あせり、悲しくなりました。

そんな時、認知症サポーターの講座を受ける機会がありました。この講座の中で、認知症には、「中核症状」と「行動・心理症状」があるということを知りました。「中核症状」は、残念ながら治らないようですが、「行動・心理症状」は、治る可能性があるそうです。

私は、講座を聞きながら、ほっとしました。明るい光が見えてくるように思いました。なぜなら、それが難しいことでも何でもなかったからです。「大丈夫だよ。」と理解を示して優しく接すること。これで、これだけで、「行動・心理症状」が治ることにつながり、「中核症状」をやわらげることにもつながるそうです。

「違うよ。」と笑いながらも、祖母を否定したりしないでおうと私は心に決めました。私は、祖母の物忘れの進行を止めようとするあまり、必死になりすぎて、余裕を失っていたかもしれないと反省しました。祖母だつて忘れてたくて忘れたわけではないのです。

また、ある日、高齢者よろず相談センターの方が祖母の家に家庭訪問に来ました。センターの方は、デイサービスや介護保険など、いろいろな話を丁寧にしてくださっていました。聞いている祖母も、だんだんと前向きな気持ちになつていつているように見えました。それは、祖母の気持ちに寄りそいながら、センターの方が話していらつしやつたからだと思います。

少し前まで「もうすぐ死ぬんだからいいじゃない」という言葉を口にしていた祖母ですが、祖母がそんなことを言わないように私が変わらなきゃと思いました。祖母には楽しく長生きしてもらえるように、祖母のペースを大切にしながら過ごしていこうと思います。